

■米国：今冬の大寒波による需給逼迫時に石油火力が活躍

2014年4月4日の報道によると、ISO ニューイングランド (ISO-NE) 管内において、この冬の度重なる大寒波の襲来に伴う需給逼迫時に、石油火力が需給運用上重要な役割を果たしたとされる。この冬の期間中、ISO-NE 管内の石油火力はフル稼働に近い状態であり、需要の低い夜間帯でも運転を継続していた。これは、天然ガス価格の上昇により石油火力の経済性が相対的に高まったことおよび天然ガスパイプラインの許容量が上限に達しガス火力の燃料調達が困難となったことが要因と考えられている。ISO-NE は、2013年9月に策定した冬季信頼度計画 (Winter Reliability Program、2013年12月1日より有効) の中でガスの需給逼迫リスクを考慮しており、あらかじめ石油の燃料調達先および不足時の補充先の確保を事業者に義務付けていたことが、冬季の系統信頼度維持に大きく役立ったとしている。